

桜蔭俳話会 六月句会 (第三二六回)

平成二十六年六月二十一日(土)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

4点①	口角に昭和の匂ひ青トマト	才美	山門を出づるやまさにはとどぎす	友子
3点②	鞭軽く入れて夏野の十五歳	守	ソーダ水切れし旅券のビザの数	秀一
3点①	へなへなと捲る新聞梅雨ぐもり	弘子	青嵐窓から見ればハワイ島	直子
3点	二階なら伸ばせば届く枇杷の枝	眞壽	遍路道疲れし体の若楓	邦子
3点	日雷歯削る医師の独り言	秀一	紫陽花を一朵飾りて夢描く	眞壽
2点①	愛用の木綿のブラウス瓜きざむ	弘子	夜の明けぬ唱歌聞こへし夏は来ぬ	ツル子
2点①	海にみて海に染まらぬ海月かな	守	これがその樗の花と連れに言ふ	直子
2点	われ先に風追ひかける青田波	才美	三味の音の流るる門辺梅雨の月	友子
2点	草茂る古寺に鯺鮓の発祥碑	明美	遠雷の道路工事の音忙し	ツル子
2点	ばら園の初恋といふばらの色	弘子	寝られぬワールドカップ竹落葉	直子
2点	顔と顔見える関係さくらんぼ	才美	声小さく親の後追ふ鴉の子	友子
2点	一村の廃れ筋流しかな	明美	夏木立パリの夜景は暮れなずむ	眞壽
1点①	草取りや終の住処と決めたはず	弘子	短夜を日付の変わる時報かな	弘子
1点①	鬱の日や付度のなき熱帯魚	秀一	夏の雲のせて大河の海へ入る	守
1点①	どこよりも遅き夕闇芥子の花	才美	垣越へし今朝も実梅のまた二つ	ツル子
1点	空と海とけ合う瀬戸の梅雨ぐもり	幸	らつきようを漬けて夜半の金魚鉢	幸
1点	筒鳥の声夢の中へ融けてゆく	ヤエ子	サッカーはゴールが割れず夏来る	直子
1点	草茂る奥にからくりありそうな	才美	枕辺の読みさしの本明易し	友子
1点	朝顔の鉢風呂敷に老施設	幸	梅雨の寺町特攻の旅籠あり	明美
1点	数本の瓶のあじさい重重し	ヤエ子	大輪のバラ咲き揃う友の家	眞壽
1点	表札の羅馬字ばかりゼラニウム	秀一	亡き祖母の姿見え来る更衣	邦子
1点	腹心の友との語らい短夜や	邦子	父の日や届かぬ手紙描きをり	ツル子
1点	八重十葉安産寺の母娘かな	幸	浜風や遊び疲れし裸の子	守
1点	麦秋やパッチワークの広がれり	ヤエ子	青々と種から育つ枇杷の実	直子
1点	梅雨晴間干し場いつぱい風流る	邦子	一息や薄茶若葉の寺の庭	邦子
1点	出陣の蟻の隊列みだれなき	ツル子	(不在投句 古野明美、京林眞壽)	
1点	梅雨籠り状差し整理はかどらず	秀一		
1点	みちのくの仔蛙貰いネオン街	幸		
1点	山笠の棧敷の骨の組上がる	明美		
1点	触れ合つて伝令なめらか働蟻	ヤエ子		
1点	賑やかにやがて淋しき祭かな	守		

「事務局からお知らせ」

○七月句会

・七月二十七日(日)午後一時

・場所 旭区民文化センター・サンハート(相鉄線二俣川駅ライフ五階)

※

○八月は、句会は休みです。

虹の帯試験がんばると中学生	ヤエ子
青春の熱き日想う蘭の花	眞壽
父の日や面影似たる人のあり	友子